

風氏) 司会西村弘子女士。関東関西の名手の外日舞の若柳、西川、志賀山各流の代表的有名人を招き華々しく開催盛會裡に終始した。大高源吾一樋口旭総・絃旭昇 曾我兄弟一竹本旭将・絃旭操、天の羽衣一若宮旭登、中島旭穂、山本旭紅・絃旭桂、旭桂、旭瑞常・立方二 吉野山懐古一宮垣旭璋・絃旭昇、小絃旭好 月に思ふ一横野旭風・絃旭桂、旭紅、旭楓 若き敦盛一木庭旭山 曲垣平九郎一矢吹旭美津 坂崎出羽守一西川旭操・立方一玉藻の前一富樫旭桂、高千穂旭楓・絃旭堂、旭山、旭登・立方一 羅生門一松岡旭文、坂田旭弘、橋本旭司・絃旭操、旭穂、旭璋 二〇三高地一田中旭昇、浜本旭好 秋風故郷山一樹本旭風・絃旭堂、旭桂、旭楓、旭将・立方一 土屋主税一原島旭桂 舟弁慶一柴田旭堂・絃旭楓・立方一。

ところ肺炎併発六月十八日午後四時四十分逝去。享年七十八。二十日密葬、二十九日東京杉並区高円寺南の長仙寺に於て吉川英史氏葬儀委員長となり本葬が営まれ多数の琵琶関係者参列供花焼香して盛儀を極めた。氏は明治三十一年十二月二十八日東京に生れ永田錦心氏に師事してその奥儀を極め錦心師亡きあと大館派の宗家としてその美声と繊細な芸風を以て錦心流琵琶の真髄を發揮し一世を風靡した名人で出藍の弟子も多く現存。この訃報は全琵琶界のため大きな損失と云わねばならぬ。謹んで哀悼し御冥福を祈る。

(予 告)

- 京都琵琶協会八月定例茶話会 八月三日(日) 昼一時、会員矢吹旭美津女士宅。
- 敬老慰問納涼琵琶諸芸大会 八月三日(日) 昼大阪東区老人福祉センター(地下鉄谷町四丁目下車)、主催大阪琵琶同好会。
- 琵琶を楽しむ会 八月三日(日) 十時一十六時楽寿荘(京阪電車光善寺駅下車)、参加自由。
- ラヂオFMで琵琶放送 八月七日(木) 夕五時から五時半まで「樹合勸進帳」。(弁慶) 浅野晴風、(富樫) 山下晴楓両氏。
- 旭鴻会夏季演奏会 八月二十四日(日) 昼東京大手町農協会館(会長藤巻旭鴻氏)。
- 京都琵琶協会秋季演奏大会 九月二十一日(日) 昼京都府立文化芸術会館二階和室。

あ 猛威をふるって各地に大きな損害を与えた梅雨も漸く終って世は文字通り炎暑の毎日である。豪雨禍を受ければ同好の方々は誠に気が毒の一語に尽きる。夏の夜の風物詞、大字の送り火は八月十六日の夜空を焦がす。東山如意ヶ岳の「大文字」焼きに続いて五分おきに金閣寺大北山の「左大文字」、松ヶ崎西山の「妙法」、西加茂明見山の「船形」、上嵯峨水尾山の「鳥居形」、これを五山送り火と総称し七時四十分平安の鐘を合図に京都市内のネオン広告塔など一時間に亘って消灯され送り火をクッキリ浮き出させる。大文字の送り火は十五日のお盆で里帰りをしていた精霊が翌十六日に冥土へ帰る「精霊送り火」だとされている。蒸し暑い夏の夏は大文字が過ぎるとやっと暑さから解放される日が近いよう気になる。ペンの走るまじつ琵琶楽に直接関係のないことを書いてしまつて恐縮千万。いつもの事で気が引けるが本号も予定していた有意義な記事の二、三が次号廻しとなりご執筆寄稿下さった方々や読者に申し訳なく思っている、お許し下さい。こゝ当分暑さが厳しかろう、充分御自愛の上大声で琵琶を演奏して暑さを吹き飛ばそうではありませんか。

昭和五十年八月一日発行(非売品)
編集者 植村 絃 水
発行所 高槻市津之江北町一ノ二番
電話 〇七二六(八五六一)五二番

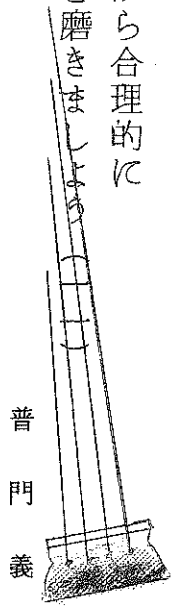
琵琶 機関紙

京 絃

第二五四号 京 絃 社

楽理を学びながら合理的に

技を磨きましよう



普門義則

◎自由リズムの特徴と效用について、崩以外の基本吟、詩歌吟、吟替の大旋律型は何れも朗吟風旋律で非拍節リズムであることは前講にて申述べた通りであります。

この無拍子型は拍子型に比較して、音楽的価値がないと主張する西洋音楽家でありますが、之は認識不足も甚しいものであります。

この型はこれなりに音楽美を具備しているものであります。語りもの、芸術的表現には最も適した型であります。

拍子型は拍子に依り旋律の美しさは十分に発揮出来ますが、拍子の規律に束縛されて、文意を活かす為自由に心のまゝに旋律の増減が出来ないのであります。

之に比べて自由リズム即ち無拍子型では微妙な裝飾音である小節、増節を思いのままに大きくも小さくも取扱うことが出来るのであります。この小節の大小の扱いに依つて旋律の美しさを極度に発揮し、変幻自在に歌詞の内容の表現が出来ると利点があります。

拍子を打つ快感こそありませんが、呼吸リズムに乗せて、音と音との長短、強弱のバランスを良くとって、聴く人の耳に如何にも音楽的な快感を覚えしむる無拍子型独特の音楽を形成するものであります。

拍子がない音楽とは変則的であると考えられるでしょうが、然し文意の表現音楽である「語りもの」としては芸術的目的から来た自然な作曲であると言えます。

精神的リズムである「間(ま)」の運用は、自由な無拍子型の方がより一層情緒の表現に容易であります。従つて茲に於てこの型の存在価値に意義があり、芸術的な目的が果たせることになるのであります。

◎拍子型

これには二つの型があります。

(一) 拍子的リズム

音が拍によつて組織され、強拍が周期的にくるリズムであります。その音の長短は、拍の倍数或は分数であります。近世のヨーロッパ音楽が大部分が之に属しており、勿論、日本の学校の教材もこのリズムによつてあります。その為これがリズムのすべてであるように思れており、狭義にリズムと云えばこれを呼んでいるのであります。

拍節的リズムと同様に二拍子系、三拍子系といくつかの拍でまとまつており、その構成をする音の長短は拍の倍数或は分数になつていますが、然し異なるところは強拍が規則的でないところであり、強拍が規則的でないところがあります。

(二) 定量リズム

薩摩琵琶の「崩」の歌法及弾法も之に属します。尚イタリ、ヴァチカンのグレゴリオ聖歌、ロシア聖歌、シリア聖歌等にも見られるリズムでありまして、之を五線譜で書き表わす場合は強拍が周期的に來ないので拍子の異つた小節が交つて記譜され複雑になつておきます。

◎歌法と弾法のリズム関係
琵琶は撓で弦を弾いて奏する、撓弦楽器であります。本来は拍子型の旋律を奏する楽器であります。然し崩の奏法にある「繁手」即ち撓を小さく早く往復動さすトレモロ奏法、口琵琶の「チリチリ」「ジャリジャリ」は弓奏楽器及吹奏楽器と同様、自由リズム、無拍子型旋律を奏することが出来ます。

「崩」のような拍子型は歌法の拍子に合せて弾法を奏すればよいので、この間(ま)拍子に留意して練習するならば割合容易に之を

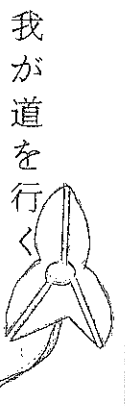
会得することが出来るものであります。難しいのは自由リズムの無拍子型の歌唱法である基本吟、詩歌吟、吟替とその弾法との関係であります。

之は練習時に於て弾法を歌法と関係づけたいで長年練習していたために、歌法と弾法とが別個に上達された結果と思えます。私が或日某所で某演奏家の演奏を聴きました時、右の例の通りでありましたので、アドヴァイス申上げたことがありました。即ち「講談師は三味線もなく琵琶もなく扇子一本で、その打方の間一ツで立派に語っております。琵琶歌も琵琶の手を弾くとせず、扇子一本のつもりで琵琶の開放弦だけの打方の変化と聞だけの「アシライ」で練習されては」と極言いたしましたことがありました。日本の伝統音楽はその大半は歌曲でありまして、日本人は国際的に見て、独特な方法で強弱をつけながら、その旋律を部分的に細くゆり動かして裝飾する「小節」を使っており、この「小ブシ」は前述のように自由リズムに依る産物であり特徴であります。この歌曲を生かす伴奏楽器の独自の精神リズムである「間」の取り方は邦楽の大きな特色であり、何れの邦楽の大家も終生の研究課題として之に研鑽するものであります。

小生は常に歌と弾との「間」の関係について人間の体に例をとるならば、歌は無拍子の「呼吸」活動であり、弾は心臓の「鼓動」であります。又自然現象に喩れば、歌は大洋の波動の「うねり」であり、弾はその「うねり」の中で動いている「小波」の変化であると申しております。

歌法の呼吸リズムが琵琶全曲のリズムの根源であります。それ故に歌曲の旋律が終って琵琶の間奏となりましても、その歌法の呼吸リズムは潜在的リズムとして続き、弾法の拍子型定量リズムを支配しているのであります。とは云え、琵琶は歌法を主とするも弾法の大きな協力援助に因り成立していることは、今更申上げることもありません。最後に再度申述しますが、歌法の内リズムに合せて弾法を奏していただくことが最も大切なことであります。尚未だ未だ申述したいことが多々ありますが、之にて一応、本稿を終りたいと存じます。今後は断片的に思いつくままに何か寄稿いたすつもりでございます。長い間、御愛読をいただき有難うございました。(終)

暑中御伺 京 紘 社



我が道を行 六十五年(二八) 西郷天風

先づその「アング」について云うならば、貧困故の犠牲者には非ずして、至って豊かな家庭に育った十六、七の小娘であり、従って茶の湯生け花は元より、琴、三味線、裁縫に至るまで女芸一式を身につけ、二階家に豪華な家財を備えて生粋の日本男子に接することを目標とし、目出度意気投合の間柄ともなれば最早それは遊興客ではなく、その家ぐるみ妾宅となるばかりか経費は総て先方持ちとなるものゝよし。

更にその娘は彼の家庭に来て手伝をするよりになっても、正妻は心よく受人れるのが那覇民衆の常識であって、一日でも多く「夫」を楽しませるのが妻の心意気であり、誇りとする様な生活環境の中に遣入れれば不思議に嫉妬など起らぬもの、とは山本夫妻の述懐談であった。つまり、南方民族の社会では女性が営々と働いて男性を安んずるのが当り前の事らしく、そうした風習は支那大陸の関東(カントン)以南の風俗に接して見れば合点が行くのである。元千代田通信社上海駐在員だった私は、昭和十五年頃、云ふなれば、大東亜戦突入の前

年南京大陸新報(時の社長鈴木善一氏は現在淑徳学園常任理事)の委嘱もあって南寧方面の戦況視察に出かけ、序でに援蔣ルート問題の中心仏領印度支那へと従軍を続けた(この詳細は南方従軍記で)。その道すがら、南国女性の働き振に一驚を喫した次第だが、カントンではあの広大な珠江の流れをうづめる程無数の小舟を操る船頭も、所々の港湾で働く船頭もすべて女性ばかりで、その殆どが髪の毛を長く編み背中にかけて櫂を巧みに漕ぐ姿は、男まさりの堂々たるものだった。

亦仏印のハイフォン港に入港の際、百人にも及ぶ荷役が皆尖ったすげ笠に、薄黒い上衣を着た女性ばかりで男性の姿は見なかったし、市内の広大な青果市場に天秤棒を肩にして野菜や果実食糧品を運び込む労働者も総て女性ばかりだった。それがまた、その大半は歯を黒く染めており、三々五々笑しげに談笑する風情が、何となく日本婦人のしとやかさを偲ばせる仕草で印象的であった。

兎に角こうした状態からしても南国女性の遅しさが恐ろしい程感じとられたのである。

閑話休題

思えば大正八年に帰京していた私は、小石川久堅町の家から徒歩で二十分たらずの、伝通院に近い中山鳳岳先輩の家にちよいちよい通っていた。この鳳岳師は私の師事する満留鳳南師と共に鳳鳴会の幹部で、特に私を弟の如くいつくしむ先輩の一人だった。当時正派薩摩琵琶の殿堂であり、絵舞台と

して知られた神田の南明倶楽部で、毎月催される正絃会例会には必ず中山師のお供をするのが常だったが、或る時中山師の方から誘いに來られ、いつもより少し早めに会場に着けば、我々後輩は滅多に入れぬ楽屋に招き入れられた。其処には能勢先生初めお偉方数人が談笑の最中だったが、恐る恐る初対面の挨拶がすむと、能勢先生から威厳のある声で「君か、三月で人の三年分を習得したと云うのは、この思いもかけぬ質問に私は面喰って咄嗟に返事が出来なかつた。すると中山師、すかさず「そうです、満留鳳南の許に通い初めて四ヶ月目から師範代となり、三年前から通っている弟子にも稽古をつけておるのです、どうぞよろしく願います。」

「ウーム、そうか、今日はしつかりやるんだな。」これは明らかに、能勢先生と中山師との間で話はすゝめられていたのである。私は中山師の琵琶を借りて「物狂」か何かでテストを受けたが、その時ステージの最前列の目の前には中山師初め辻東舟、大川鳳流師等数人の先輩が肩を並べておるの何となく心強く感じたものだった。

降壇して辻氏の脇に座した時、辻氏曰く、「よかつたぞ、僕は八十点を憤発したよ、この連中は七十五点と云うがね」と上機嫌だったことは忘れられず今日に至っている。その頃鹿兒島から飯牟礼長翁が上京され正絃会に特別出演だったと思うが、曲目はお

得意の「九連城」全曲で、会員達初め聴衆に多大の感銘を与えたことがあった。その時中山師と共に受けた感想は、鹿兒島本場も東京正絃会も、弾奏の呼吸にはさして変りはないが、文意の表現方にいさゝか相違のあるのに気がついた。たとえ「難攻不落の九連城」あたりから「火蓋を切らんばかりなり」のくだりは、誰しもその物々しさ、恐ろしさの様相を表現することには終始するが、寿長翁の意中にはその恐ろしさを前に見ながら「何を小癩な//いまに見ておれ」と云わんばかりの不敵な感情を含めており、それが聴く人の胸にひしひしと応えるのである。之は正しく節付の如何に起因するところが多いと気付いたのであった。

狂醉亭漫録(百十四) 利休処刑事情(三)

古谷 竟水



次に利休の娘お吟と親交があったという、細川忠興の妻とは如何なる婦人か、その略歴を史書によると、細川忠興の妻(一五六三—一六〇〇)明智光秀の第三女、永祿六年誕生、容貌美麗を以て聞えた。天正七年忠興に嫁し、忠隆、(第十四頁に続く)

暑 中 御 見 舞			
<p>〒604 京都府中京区高倉通丸太町下ル坂本町 電話〇七五(一一)二〇八九番</p> <p>薩摩琵琶高昇流家元 泉勝院 峰 口 高 昇</p>	<p>〒658 神戸市東灘区御影中町一ノ一 電話〇七八(八五)一二六三番</p> <p>錦心流一水会 田 中 紘 水</p>	<p>〒249 逗子市桜山三ノ四ノ五三 電話〇四六八(七三)一二二〇番</p> <p>錦心流琵琶教授 平 野 鉦 水</p>	<p>〒198 東京都青梅市大門七八七ノ一 電話〇四二八(二二)四四五八番</p> <p>薩摩琵琶 水会 正絃会・四明会・さつき会会員 岡 部 錦 蝶</p>
<p>〒183 東京都府中市新町二ノ六八 電話〇四二二(六一)五六八四番</p> <p>坂 本 錦 道</p>	<p>〒604 京都市中京区西ノ京西鹿垣町一 電話〇七五(八四)二九八九番</p> <p>錦心流琵琶 牧 南 水</p>	<p>〒625 舞鶴市朝日通五條東入 電話〇七七三(六四)〇五一八番</p> <p>日本旭会 舞鶴琵琶協会 琵琶教室 高 橋 旭 洋</p>	<p>〒618 大阪府三島郡島本町接井四丁目 電話〇七五(九六一)五〇四三番</p> <p>桜井旭会会長 秋 元 旭 晨</p>
<p>平美峰水木木阪荒古牧山安矢梅植田若戸戸馬伊 登 井里口内下村本木谷 本住吹原村中宮田倉場吹 春進高媯皇維一旭竟南嶺旭旭旭寔鷲旭旭旭鴨正 美 嶺水昇水水水峰媛水水舟康津濤水水登公嶺水陽</p>		<p>〒603 京都市北区平野宮西町六四 平井方 電話 (四六二) 一四二三番</p> <p>京都琵琶協会</p>	

暑 中 御 見 舞			
<p>〒168 東京都杉並区下高井戸五ノ二二 電話〇二二(三〇三)五八九四番</p> <p>あさひ短歌会 翠琵琶宗家 竹 下 翠 風</p>	<p>〒671-02 姫路市花田町高木一八ノ四 電話 姫路(二三)七一九五番</p> <p>北 中 旭 蝶</p>	<p>〒369-12 埼玉県大里郡寄居町玉淀 電話〇四八五(八一)一七四〇番</p> <p>大 井 錦 淀</p>	<p>〒573 大阪府枚方市上島東町四番</p> <p>錦心流琵琶教授 広 瀬 織 水</p>
<p>〒350 埼玉県川越市南通町一ノ二一 電話〇四九二(二二)四四六一番</p> <p>熊 木 秀 司</p>	<p>〒040 函 館 市 柳 町 三 一 電話〇一三八(五一)七九九番</p> <p>西 村 峽 水</p>	<p>〒181 東京都三鷹市上連雀二ノ九ノ一 電話四二二(四四)一四一六番</p> <p>日本琵琶三位研修同志会本部 伊 集 院 鼓 城</p>	<p>〒520 大津市中央一丁目一番十号 電話〇七七五(二四)五〇六五番</p> <p>戸 倉 旭 嶺</p>
<p>〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ一 芸友社 電話 (九九一) 〇三六三番</p> <p>鈴 木 誉 士</p>	<p>〒950 新潟市粟山三九九ノ一 電話〇二五二(七六)〇二〇八番</p> <p>伊 藤 啓 水</p>	<p>〒011 秋田市土崎港中央四丁目 電話〇一八八(四六)三三三四番</p> <p>錦心流一水会秋田支部 星 野 巖 水</p>	<p>〒535 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四 電話〇六(九五)九九二四番</p> <p>筑前琵琶日本旭会 大阪中央部旭会会長 塩 谷 旭 洲</p>

暑 中 御 見 舞

〒154
東京都世田谷区太子堂二丁目
二番八号
電話 (四一四) 六五七八番

宮崎直二

日本琵琶振興会

会長 鈴木流泉

〒343
越谷市大成町一ノ二三九二
電話〇四八九(82)二二四一番(代)

(予告)

名流演奏会

五〇・一〇・一八(土)夜

東京上野本牧亭

主催 鈴木流泉

筑前琵琶日本旭会理事長
東大阪旭会会長

榎本旭風

〒537
大阪市東成区神路三ノ八ノ十八
電話〇六(九八二)二二九一四
夜間〇六(九七二)二七七八番

高千穂旭楓

〒544
大阪市生野区小路二丁目
二六一二五
電話〇六(七五三)〇〇六六七番

暑 中 御 見 舞

〒173
東京都板橋区板橋一丁目二十一
番四号
電話 (九六一) 一二〇〇番

池上作三

日本芸能顕彰会

理事長

鈴木鉦次郎

〒114
東京都北区田端町一五三
番
電話 (八二二) 六六六二番
振替 東京二〇〇四一番

筑前琵琶橋会宗範
大和流琵琶吟家元

山崎旭萃
山崎光椽

〒569
高槻市津之江町二丁目二ノ三
電話〇七二六(七一)六五八〇番

暑 中 御 見 舞	
<p>〒164 東京都中野区中央一ノ三二ノ六 電話 (三六一) 七七四〇番</p> <p>薩摩琵琶 仲川秀邦 (旭朋)</p>	<p>〒606 京都市左京区下鴨藪倉町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八)三〇五〇番</p> <p>錦心流琵琶 一水会京都支部 会員一同</p>
<p>〒250-04 神奈川県足柄下郡箱根町強羅 一三〇〇 紅葉閣 電話〇四六五(二二)二一一二番</p> <p>筑前琵琶橋会 押川旭葉</p>	<p>〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番</p> <p>筑前琵琶旭鴻会本部 日本旭会大師範 藤巻旭鴻</p>
<p>〒431-31 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一番</p> <p>薩摩琵琶 四明会員 正絃会員 静岡県吟詠連盟理事長 晃陽小野鶴彦</p>	<p>〒950 新潟市米山西通り一四九番地 電話〇二五二(四四)七〇九二番</p> <p>錦心流琵琶一水会新潟支部長 樋口禁水</p>

暑 中 御 見 舞	
<p>〒570 守口市緑町土居団地十一号 小川吟水方 電話大阪(九九二)五六二五番</p> <p>錦心流琵琶 一水会大阪支部 会員一同</p>	<p>〒662 西宮市羽衣町七ノ三四 三浦蓮水方 電話〇七九八(三三)五八八七番</p> <p>錦心流琵琶 一水会神戸支部 会員一同</p>
<p>〒164 東京都中野区中野二ノ二五ノ六 電話 (三八一) 八九二二番 自宅(三八三) 四七一三番</p> <p>薩調晴風会 会長 浅野晴風</p>	<p>〒160 東京都新宿区西新宿七丁目一五 柏ビル内</p> <p>日本芸術琵琶 柏 会員一同会</p>
<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町 電話 (六九二) 〇一二八番</p> <p>琵琶三美会 会長 矢吹旭美津 田中鵬水 富山旭貴 西村旭富 一坊寺旭清 外門人一同</p>	<p>〒678 相生市相生三丁目一四ノ一七 電話〇七九二(二二)五一二八番</p> <p>師範 浜本旭好</p> <p>〒653 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一四五 電話〇七八(六七)〇〇一八番</p> <p>筑前琵琶日本旭会 師範 田中旭昇</p>

舞 見 御 中 暑

〒160
東京都新宿区三栄町十六番
電話(三五)四五九一

押田旭窈

筑前琵琶日本旭会

〒651
神戸市葺合区上筒井五ノ四ノ二
電話〇七八(三二)一六二番

宝塚花組
上原まゆり
(旭艶)

筑前琵琶旭堂会
旭会大師範
柴田旭堂

正派 薩摩琵琶四明会
事務所 京都府京都市北区平野宮西町六四
〒603 電話〇七五(四六二)一四二三番

京 都	大 阪	名 誉 会 員	久 留 米	島 津	小 野	山 田	川 本	豊 中	枚 方	高 槻	原 兼	藤 崎	有 馬	長 谷	岡 部	香 川	山 本	平 井	伊 吹	栗 本	京 都	
早 石	伊 勢	杉 谷	早 石	伊 勢	早 石	伊 勢	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石	早 石
天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正
天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正	天 正

舞 見 御 中 暑

〒520
大津市逢坂一丁目一二ノ三一
(蟬丸神社前)
電話 大津(二四)九三二八番

伊藤 松岡
藤 旭
暢 岡

〒060-91
札幌市中央区南六条西七丁目
電話〇一一(五一)八三四八番

広川 岳楓

〒420
静岡市西草深町二十一番二十号
電話〇五四二(五三)一四七一番

吟詠 赤心流
琵琶 赤心流
家元 赤心流 鶴翁

暑 中 御 見 舞

<p>〒370-12 群馬県高崎市岩鼻町二四七 電話〇二七三(四六)二〇〇六番 (局前)</p> <p>宗家 針谷錦古</p> <p>全国朗吟文化協会関東副部長 テイチクレコード専属 群馬琵琶連盟会長 日本錦古流詩吟本部</p>	<p>〒662 西宮市羽衣町七ノ三四 電話〇七九八(三三)五八八七番</p> <p>三浦蓮水 詩吟 琵琶 蓮水会 會員一同</p>
<p>〒606 京都市左京区岡崎徳成町一四 電話〇七五(七七)四〇一六番</p> <p>荒木旭媛</p> <p>筑前琵琶橋会 法香久院</p>	<p>〒600 京都市下京区西新屋敷下之町 電話 (三四一) 一六七四番</p> <p>水也田流教頭 琵琶 楽 琵琶講談 緑鷺齊美登里進水</p>
<p>〒040 函館市青柳町二六ノ一四 電話 (二二) 八三六五番</p> <p>高橋蘇水</p>	<p>〒420 静岡市沓谷三丁目一九三ノ二 電話〇五四二(六一)九四四四番</p> <p>静岡県吟詠同志会副会長 琵琶吟詠正吟会会長 伴野鶴風</p>

暑 中 御 見 舞

<p>〒570 守口市緑町土居団地二一五号 電話 (九九二) 五六二五番</p> <p>大阪吟水会 山田偉津子 北村育清子 桜田靖子 小金寄甫水子 小西川吟水</p>	<p>〒617 向日市西向日鶏冠井町山端 電話 (九三一) 一六九一番 二番地</p> <p>梅原旭濤</p>
<p>〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話 (六一) 三六七六番</p> <p>横須賀琵琶連盟会長 山田幻水</p>	<p>〒124 東京都葛飾区堀切二ノ六〇ノ三 清和荘二階一五号 電話〇三(六九四)九五七九番</p> <p>東洋音楽学会会員 邦楽鶴鳴会主宰 史城普門義則</p>
<p>〒359 所沢市日吉町十七ノ十三 電話〇四二九(二二)三一七五番</p> <p>錦心流大館派琵琶 平井洲誠</p>	<p>〒790 松山市柳井町一丁目 電話 (二二) 二三一七番 松山市立花町三丁目五ノ六 閑居庵 電話 (四一) 三八八七番</p> <p>愛媛琵琶連盟顧問 薩摩琵琶松山晃絃会 佐藤晃絃</p>

興秋、忠利の三子及び二子を儲けた。天正十年六月父光秀が本能寺に於てその主織田信長を殺害するや、忠興は光秀から味方に招かれたが之に応ぜずして、却って羽柴秀吉に属し明智氏（以下忠興夫人の事）を離婚して之を丹波国三戸野山中に幽し、家人をしてこれを警衛せしめた。山崎の戦に光秀敗れて一族滅びるに及び、家人は明智氏に自刃せんことを勧めたが、明智氏は今ここに自殺すれば孝道には叶えど、夫忠興の命を俟たずして事を行うので三従の誠を破る事に成ると云って、ひたすら艱苦節を守る事を続けた。其の後徳川家康の計により、秀吉より忠興を諭すところあり、忠興の妻として復婚した。

慶長五年七月石田三成、家康を討たんとし上方に兵を挙ぐるや、三成等は家康の上杉氏攻めに従って会津に進発した豊臣家恩顧の諸將の妻子を質として大阪城内に納めんとして、まず使者を大阪城外なる明智氏の許に遣わして城内に移らん事を求めたが、明智氏は夫忠興の命をまたずして何をか為さんと云って肯んじなかつた。ここに於て三成兵数百を以てその邸を囲み、之を脅すに至つた。明智氏は乃ち門を閉ぢ自刃して果つ。年三十八。家人及び侍婢悉くこれに詢じた。

明智氏の義死は忠興をして願慮の念を絶ち益々徳川氏の為に力を效さしめたのみならず延いては家康の東行に従える諸將に及ぼし、敢て妻子のために一人の西帰する者なきに至らしめ、三成等の計画に齟齬を生ぜしめ、関

ケ原合戦の勝敗に影響する処少なくかつた。明智氏自刃の実況を詳かにした好史料としては、現に細川元侯爵家の所蔵に係る「霜女覚書」がある。之は明智氏が最期に臨んで侍女二人に命じ遺書を託して難を遁れしめたがその侍女の一人なる霜女が、櫻武の後忠興の曾孫光尚の請によつて、正保五年二月十九日当時の顛末を録上したものである。

なお明智氏は耶蘇教の洗礼を受けて、基督教名をガラシヤと云い、日本風には加羅奢と云う文字を使用して居た。以上が戦国時代の悲劇の主人公ガラシヤ夫人の輪廓であるが、彼女は文化知識に富む父光秀の血を受けて、当時としては代表的な文化女性であった。今記述の順序として誰でも知悉している事乍ら父明智光秀の生涯を極めて簡略に記載する。

明智光秀（一五二六一—一五八二）戦国時代の武将。美濃土岐氏の一族。通称十兵衛。永祿元年始めて織田信長に仕え、戦功を立てて天正二年従五位下日向守となり、翌年惟任の姓を授けられて丹波に封ぜらる。

天正五年波多野秀治を攻めた際、光秀は母を人質として秀治と和し、秀治を信長に送つたが信長之を磔殺した為光秀の母は秀治の兵に殺された。その上同十年五月信長が徳川家康と会した際、光秀は接待役となつたが信長に辱かしめられた為遂に意を決し、天正十年六月二日未明、信長を京都本能寺に襲うて弑す。時に中国に在つた羽柴秀吉は直に帰つて

明智軍を山崎に破る。光秀は六月十三日小栗栖に逃れ土民に殺さる。本能寺に信長を弑して後僅かに十一日であつた。さて本題に戻つて利休処刑の事由であるが吟子が松永弾正の遺児なる事を知つて利休が私かに養育した事は、一部の噂に過ぎない。又、吟子がガラシヤ夫人と親交のあつた事も確実な史料は見当らないが、兩人共当時としては最も教養の高い女性であり、年令もガラシヤが吟子より五歳位年上であり、殊に兩人共通の考えは、ガラシヤの父光秀は秀吉に滅ぼされ、吟子の父久秀は信長に亡ぼされたが其陣中に秀吉も加わつて居り、ガラシヤ吟子の兩人は秀吉を共通の親の仇敵と思つて居た事である。従つて此兩人の交際接近は当然結ばれて然る可きであると考えられる。

以上の事柄を秀吉が知悉し、更に利休の性格が傲慢不遜の上、悪事迄働く様では我慢ならず、秀吉は決然として処刑に踏み切つたもので、木像の件は唯口実に過ぎぬのである。私が利休の最期という琵琶曲に対し不審を抱き追求の末何等結論は得られず、誠に汗顔至極であるが、歴史探求に失敗した一例として敢えて執筆した次第である。

（東京鈴木吟亮氏から）（前略）貴紙の記事は皆立派で敬服しております。中にも古谷寛水様の「利久処刑事情」には感服しました。本当によくお調べになつておられます。小生は旧姓中村で名を一成と申し静岡

ケ原合戦の勝敗に影響する処少なくかつた。明智氏自刃の実況を詳かにした好史料としては、現に細川元侯爵家の所蔵に係る「霜女覚書」がある。之は明智氏が最期に臨んで侍女二人に命じ遺書を託して難を遁れしめたがその侍女の一人なる霜女が、櫻武の後忠興の曾孫光尚の請によつて、正保五年二月十九日当時の顛末を録上したものである。

なお明智氏は耶蘇教の洗礼を受けて、基督教名をガラシヤと云い、日本風には加羅奢と云う文字を使用して居た。以上が戦国時代の悲劇の主人公ガラシヤ夫人の輪廓であるが、彼女は文化知識に富む父光秀の血を受けて、当時としては代表的な文化女性であった。今記述の順序として誰でも知悉している事乍ら父明智光秀の生涯を極めて簡略に記載する。

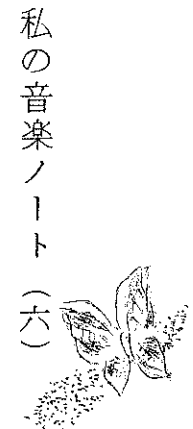
明智光秀（一五二六一—一五八二）戦国時代の武将。美濃土岐氏の一族。通称十兵衛。永祿元年始めて織田信長に仕え、戦功を立てて天正二年従五位下日向守となり、翌年惟任の姓を授けられて丹波に封ぜらる。

天正五年波多野秀治を攻めた際、光秀は母を人質として秀治と和し、秀治を信長に送つたが信長之を磔殺した為光秀の母は秀治の兵に殺された。その上同十年五月信長が徳川家康と会した際、光秀は接待役となつたが信長に辱かしめられた為遂に意を決し、天正十年六月二日未明、信長を京都本能寺に襲うて弑す。時に中国に在つた羽柴秀吉は直に帰つて

明智軍を山崎に破る。光秀は六月十三日小栗栖に逃れ土民に殺さる。本能寺に信長を弑して後僅かに十一日であつた。さて本題に戻つて利休処刑の事由であるが吟子が松永弾正の遺児なる事を知つて利休が私かに養育した事は、一部の噂に過ぎない。又、吟子がガラシヤ夫人と親交のあつた事も確実な史料は見当らないが、兩人共当時としては最も教養の高い女性であり、年令もガラシヤが吟子より五歳位年上であり、殊に兩人共通の考えは、ガラシヤの父光秀は秀吉に滅ぼされ、吟子の父久秀は信長に亡ぼされたが其陣中に秀吉も加わつて居り、ガラシヤ吟子の兩人は秀吉を共通の親の仇敵と思つて居た事である。従つて此兩人の交際接近は当然結ばれて然る可きであると考えられる。

以上の事柄を秀吉が知悉し、更に利休の性格が傲慢不遜の上、悪事迄働く様では我慢ならず、秀吉は決然として処刑に踏み切つたもので、木像の件は唯口実に過ぎぬのである。私が利休の最期という琵琶曲に対し不審を抱き追求の末何等結論は得られず、誠に汗顔至極であるが、歴史探求に失敗した一例として敢えて執筆した次第である。

暑 中 御 見 舞	
錦びわ本部 水 藤 五 郎 〒176 東京都練馬区旭町三ノ 電話(九三〇) 四四九八番 二二ノ四	錦心流一水会多摩支部長 各流派琵琶武絃会事務所 伊 藤 馨 水 〒184 東京都小金井市本町 一丁目八ノ五 電話〇四二三(八一) 三三四四番



私の音楽ノート (六)
水藤五郎

琵琶師と琵琶人

日本語の混乱と、それに対しての賛否が叫ばれている今日、私たちの様な日本語を芸術素材として芸術活動を続ける者にとって、この論議の行方は決して無縁のものには思えません。言葉の問題について私達は、今以上に注意深くする必要があります。

琵琶や三味線、尺八、箏等の楽器の手入れ選択と同様に、言葉の用法、そして選択が伝統音楽に志す者にとって大切であると思いませんか。「ことば」への敬愛を失う時、歌唱形式の音楽はその存在基盤を失うのであります。音楽を志す者、音楽を愛する者にとって、音楽の修練と同様に歌の言葉、則ち詩が大切な修練目標となるべきであります。この意味に於て文学者となるのであります。美しい文章が

そのまゝ音楽になることは多くの事例が示しています。もっとも、この点に關しては、日本語が音楽的かどうかと云う研究課題が残ります。ドイツ語の歌曲に於ける美しさ、フランス語の会話の美音性を考える時、日本語のそれはどうなのでしょう。今日の日本語の混乱はその文化の混乱、則ち日本人の生活文化の混乱の反映とも云えるのであります。

過去の日本文化の反映である古いことば、これに対して新しい文化の担い手となるべき「これからのことば」、この二つには相容れぬ一線があるのでしようか。言葉は生きものであり、常にその在り方が変化し得るものでありますから、時の流れと共にその形や用法を変えてゆくのでありましょう。同じ土地であつても「江戸のことば」と、今日の「東京のことば」とは多くの点で相違を持つのであります。是は極当然のことでありまして、嘗って「生きたことば」として存在していたにも拘らず、今日では既に忘れられ「死語」となっていることば」があります。単語の變遷は我々が現実を感じ得ることでありまして。語り物や、歌謡形式の邦楽に在つて、この「ことば」の生死が論じられることが甚だ少ないと思ひます。一つの歴史事項を描写する手段として、「小説」と云う読み物のジャンルと、テレビ、映画等の演技ジャンルが理解され、箏曲や語り物三味線曲、そして能楽等が敬遠され、琵琶に至つては全く無理解にも劣る取扱いを受けるのが、今日の日本音楽の状

況です。民謡や浪曲や、そして詩吟が辛うじて保持しているのは多少の救いにはなりません

「源氏物語」が、「枕草紙」が読まれてゆ

語り物音楽は、その芸術素材である「ことば」に生命を与えることが未だに出来ぬよう

はどうでしょうか、定型的な音数律と、時折入り入る死語の並列、会話を余りあらわれない

現代の琵琶界不振の因は、プログラムに見る非今日性でありましょう

が若宮、石田、長谷川、山崎の四氏が会長宅に集り六月開催予定の柏会第一回公開演奏会



錦心流琵琶と 五月二十五日屋西宮市立詩吟の会 中央公民館、主催一水会神戸支部、後援蓮水会

第二回錦心流 六月一日昼敦賀市文化会琵琶演奏大会 館ホール、一水会福井支部、洲水会敦賀支部共催

旅順開城一田戸桜丸 芭蕉と旅一伊集院城筆塚一中村見憲 敦盛一八東一峰 同二一坂本錦道 形見の桜三一関口竜城 風林火山一鈴木鶴福 鉢の木一輕部岳瑞 城山一清水源城。尚七月八月は休会。

が聴けば聴くほど表現の確実さと弾法のもの哀れさは聴くわれの心に釘をさされたる如く蓋し北陸第一の弾法名人である

武絃会、一水会多摩支部 六月一日昼小合 同 研 修 会 金井市福祉会館

日本芸術琵琶柏会 六月十五日昼東京西能勢西田風謡切第六、第七弾法一錦幽 夢一高田堂水 関白秀次一寺内峰水 西郷隆盛一

が若宮、石田、長谷川、山崎の四氏が会長宅に集り六月開催予定の柏会第一回公開演奏会

京都市琵琶協会 ①六月十五日昼会員平井月例茶話会 春嶺氏宅。梅雨晴れの蒸し暑

三位研修同志会 六月二十二日昼三鷹市第二十二回例会 上連雀公会堂。連弾能勢風第六弾法、西田風第七弾法一錦幽・錦道

旅順開城一田戸桜丸 芭蕉と旅一伊集院城筆塚一中村見憲 敦盛一八東一峰 同二一坂本錦道 形見の桜三一関口竜城 風林火山一鈴木鶴福 鉢の木一輕部岳瑞 城山一清水源城。尚七月八月は休会。

柏会第一回 六月二十五日昼東京新宿朝琵琶の集い 日生命ビル地下一階ホール

筑前琵琶 七月六日昼大阪難波高島青葉会演奏会 屋七階ホール(会長榎本旭